

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：竹下自治会

開催場所：金谷北地域交流センター

開催日時：平成 28 年 12 月 23 日（金）19 時 00 分～20 時 50 分

参加者：自治会側【地域住民の方 32 人】

市側【染谷市長、鈴木市長戦略部長、眞部危機管理部長、三浦秘書課長、田中戦略推進課長、浅田金谷南・北地域総合課長、秋山協働推進課長、駒形戦略推進課係長】

内 容

① 杉山自治会長あいさつ

- ・休日にもかかわらず、多くに皆さんに御参加いただきありがたい。
- ・車座トークは、市長が協働のまちづくりを実現していくために 2 年間かけて 68 全自治会をまわって、市長が直接住民の方と会って、地域資源などを活用した魅力あるまちづくりを進めていくために意見交換を行うことを目的としている。協働は、3 つの力を足すと書き、しかも働くということで、皆さんと働いていいまちをつかっていこうと、そういう関係を目指すということで実施していると聞いている。
- ・今日は皆さんに（市政報告の）お話を聞いていただき、皆さんからご意見を出していただくと共に、地域として何ができるかを一緒になって考えていければと思っている。
- ・事前に質問を 3 つほど協働推進課に提出してあるが、それ以外でも、時間が許す限り皆さんの意見を出していただければありがたい。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・川根も金谷も地域によって皆様からいただくご意見は全く違う。このために、その地域の特色や課題を知ることは計画を策定していく上で重要だと考えている。
- ・今までは『市長と語ろう』ということでやってきたが、呼んでいただくところと呼んでいただけないところがあったため、この車座トークは、市内全ての 68 自治会をまわるということで実施している。
- ・また、今年と来年の 2 年をかけて次の総合計画（H30～37）の策定作業を行っているが、この他にも、国土利用計画島田市計画や中心市街地活性化基本計画、公共施設再配置計画、国土強靱化計画などの策定もしていく必要があることから、各地域の課題、さらにはどのような取り組みをしているのかを耳で聴き、肌で感じて、それを市政に反映したいということでまわっている。

■竹下自治会の人口、世帯について

・竹下自治会の11月30日現在の世帯数は371世帯、人口は1,136人で、高齢者人口（65歳以上）は370人、高齢化率は32.6%となっている。市の平均が29.5%。3ポイントくらい高い。市内でも4割、5割の地域もある。15歳以下の人口は142人で人口に占める割合は12.5%となっている。市の平均は13.7%なので、子どもの数は若干少ない。学校も近いし、世代交代ができていく地域であると認識している。今後10年を見据えると、市内で一番変わっていく地域であると考えている。この3年半、財政的にも施策も見直して「持続可能で将来の人たちが夢を描くことのできるまち」をつくらなければならないということで市政運営にあたってきた。借金や負担が残るようなまちには若い人は住んでくれない。若い人が住まないとお年よりも幸せになれない。こうした中、重点施策として病院建設を最優先に進めていく。

■これからの行政のあり方、地域の抱える課題への取り組みについて

- ・島田に限らず、日本中で今、一番課題となっていることは人口減少。
- ・国の人口は2030年を境に人口減少が一気に進むという統計が出ている。それまでは少子化、超高齢社会が進んでいく。
- ・何も対策をしないしていると2040年には島田市の人口は8万人程度になってしまうという国の推計が出ている。
- ・働く人が減ることで税収も減っていったら、2010年と2020年の比較で8億5千万円程度税収が減ると試算がある。
- ・高齢者が増え、福祉、医療、介護の経費は増えていくが、子育て施策、教育にも力を入れなければならない。
- ・国は1,063兆円の借金があり、国民一人当たりの借金は837万円となっている。島田市も借金は約500億円あり、市民一人当たりでは約50万円となる。この借金はこの3年半で11億円を減らしてきている。
- ・地域の皆様が、安全・安心で住み続けられるまちづくりを進めていくために、「あったらいいな」から「選択と集中」の中で事業を組み立てていくことにご理解をいただきたい。
- ・かつて、拡大、拡散して発展してきた都市は、これからはダウンサイジングしつつ、機能は付加価値をつけていかなければならない時代となっている。
- ・これからは「縮充型」（＝縮みながら充実させる）の社会としていくことが必要である。
- ・市長になった翌年に、消滅可能性都市というものが出てきたが、それは全国自治体の約半数（896自治体）が30年後には消滅するかもしれないというショッキングなレポートだった。このレポートの趣旨は、若い女性がいなく都市はいずれ消滅するというものである。
- ・若い人に選ばれるまちになるためにどうしていったらいいかということは、これからの行政の大きな課題である。
- ・1975年から子どもの産まれる数は減っていて、2007年から日本の人口も減っていた中、日本中が何も手を打たなかったのに、このレポートが発表されてから日本中が「地方創生」という流れになった。
- ・過去の経験や過去の事例が問題解決の参考にならないということになる。大胆な発想や、これまでにない考え方をもちたい時代になっている。
- ・島田市と金谷町が合併したことによる交付税措置の加算額が12億円であったものが、平成27年度には10億円、今年度は7億円に減っており、平成32

年度にはゼロになる。

- ・このような時代において、一つの解決策として、「協働のまちづくり」を進めていく必要がある。

■金谷地域の公共事業について

- ・国も県も道路などを造る予算は15年位前に比べ約3分の1程度しか確保できなくなっている。
- ・国道1号バイパスの4車線化、菊川インターのフルインター化などは早期に完成できるよう、継続して予算の確保も含めて国に要望をしている。
- ・御前崎港⇒菊川IC⇒大代IC⇒新東名という大災害時における「命の道」がつながるといことで国への要望を積極的に行っている。
- ・国道1号バイパスの4車線化に伴い、大代ICのランプも大きくすることに伴いJAの移転も必要となったことにより賑わい交流拠点の構想にもつながっている。
- ・国道473号の4車線化（大代ICから新東名まで）について、最初に実施したい箇所として、主要地方道焼津森線と市道島竹下線の交差点の改良を実施していきたい。また、国道の信号と大鐵の踏み切りとの連動についても課題であると認識しており、この点についても関係者との協議を進めていく必要があると考えている。国道473号の整備は国土交通省に要望に行く最重要なものの一つ。国の道路予算が絞られている中、国直轄の高規格道路が優先されている。大代以北は地形から工事費がかかる道路であるため難しいことはあるが要望は継続していく。

■賑わい交流拠点及び新東名島田金谷インターチェンジ周辺の開発について

- ・新東名島田金谷IC付近の北東エリアの84haを内陸フロンティア地域として開発することを考えている。
- ・協議会の皆様にゾーニングの計画を立てていただいた。（新聞でも報道され、市のホームページでも公表している。）農振除外ができるかということと、大井川土地改良区の受益地になっていることへの対応という課題に最大限の力を注いでいる。
- ・NEXCO中日本、大井川鐵道、JA大井川、島田市の4者が連携し、新東名高速道路島田金谷IC周辺に、地域の特産品を集めた販売所や、カフェやレストランなどが入る施設を建設する予定。売り場面積が今のところ日本一となるマルシェ、カフェレストランとなる見込み。大鐵は新駅建設も検討している。（五和駅はそのまま残していきたいという大鐵の社長の意向があると聞いている。）
- ・このにぎわい交流拠点の構想、基本計画は島田市が策定している。
- ・市は、新東名の下に、国の占用許可をとって、約1,000台弱の駐車場を造る予定となっている。（今後、新東名のバス路線を見据えた計画でもある。）
- ・国一バイパスの4車線化に伴い、大代インターチェンジの改良も必要になるとJA大井川五和支店の移転も必要になるのではないかとと思われるので、JAの支店を交流拠点の中に組み込むことも考えている。
- ・奥大井につながる観光の拠点であり、大井川流域の農産品をここに集めて売る。
- ・最短で平成30年5～6月に着工できる計画で頑張っている。

- ・このような拠点となる施設を造ることによって新たな機能を付加することができる。ここには「にぎわい」という機能を付加していきたい。
- ・NEXCO 中日本はE T C 2.0 型（E T C で降った場合の料金のカウントを変えない方法）を検討している。
- ・牛尾山と堤間（一豊堤）のあたりから先行的に開発を進められればと考えている。（基盤整備も市としては先行して着手していきたい。）
- ・何とか今年度中に目途をつけて、にぎわい交流拠点とともに、企業誘致を進めていきたい。（アンケート調査などの結果では 20 社ほどの引き合いもある。）

■金中跡地の開発について

- ・かつての、コンベンションホール、ツインメッセなどの構想から 8 年の歳月が流れた。交流人口を増やす目的で国費（補助金）をもらって整備をしている場所であるため、その趣旨にあうものにしていく必要がある。
- ・昨年アイデアコンペを実施し、今年是有識者会議を開催し、11 月末には旧金中跡地に係る基本計画が県から示された。
- ・マーケットサウンディング（ゼネコン、土地の開発業者、金融機関などに声を掛けて現地をみてもらい、どのような開発に適しているかを、その周辺のティーガーデンシティ構想（風の郷）として指定されている地域ということも勘案して提案すること。）を行った。
- ・我々はロケーションやお茶の郷との連携も考えると素晴らしい場所だと考えているが、マーケットサウンディングでは、商業施設などは難しいという意見をいただいている。こうした中、8 年前の計画（約束＝底地は市が用意してウツ物は県が建てる）が果たせないため今に至っている。県はその約束が果たすことができないことから、民間活力をもって交流人口を呼び込むような施設を造っていきたいと考えている。そこに行政的機能を付加したいと考えている。何もしないでそのままにしておくわけにはいけない。

■お茶の郷について

- ・お茶の郷は今年の 6 月 1 日に県に移管した。島田市が所有するよりも県営のお茶の博物館になるほうが、発信力、財源の確保の点に有利である。また、花の都は浜松、お茶の都は是非、島田市へという要望をして実現した結果である。
- ・県の話では、再来年の春（仮称）ふじのくに茶の都ミュージアムとしてリニューアルオープンとなる予定。県が所有し、全国的にも例を見ないお茶の専門の博物館ということであるので市も連携を図っていきたい。
- ・県が持つことによって情報発信などにおいて効果的であることがあげられる。お茶の葉能などお茶の機能性という分野を追加することも考えられる。
- ・金中跡地から牧之原公園に向う変則の交差点は真っ直ぐになるよう改良し、同時に歩道を整備した。

■牧之原公園の整備について

- ・工事期間は 11 月 1 日から 2 月 28 日までとなっている。（公園内に工事の看板が掲示されている。）
- ・懸案のトイレについては、解体して展望台の部分を含めた今のトイレの方まで延ばしてトイレは道路側に新設する。フェンス、椅子の取替えも行う。

・このように公園全体を一体整備することは滅多にない。これは、牧之原公園が夜景100選ということに加え、お茶の郷（6月から県へ移管）、旧金中跡地と一体となった整備に相応しい公園としていくための投資である。

■新病院の建設について

- ・新病院の建設事業は最優先の事業として取り組んでいる。平成32年度末には開院できるように準備を進めているところである。
- ・建設する場所は、野田の病院の敷地内。東側の駐車場に建設する予定。地上7階建て。岩盤まで杭を打って建設をする。
- ・新病院は、県道から直接進入し、建物の形はT字型となる。
- ・5階から7階が病棟になるが、1フロアを3看護単位（45床×3看護単位）で構成する計画。
- ・1階には放射線部門との関連のある診療科を配置し、2階にセンターストリートと称する東西を結ぶ見通しの良い広い廊下（5m）を配置し、外来部門、検査部門、薬局を結ぶ。
- ・病床数は445床。診療科目は今ある診療科目を想定している。
- ・ドクターヘリを屋上に整備し、救急棟、健診センターの建物は残していく。救急棟は一階部分を透析センターとしたい。感染病床は、現在の救急センター2階に整備する。
- ・新病院開院後、救急棟の改修を行い、透析機能の移転を行った後、現病院の解体に着手し、外構工事を行う。グランドオープンは、平成34年夏ごろを想定。
- ・事業費は基本計画の段階で247億円とお示しをしたが、これ以上にはならないと見込んでいる。高い精度の積算に基づく事業費を年度内にお示しできると思う。

■最終処分場について

- ・最終処分場については、あと5、6年は使えるが、県の許認可の期限が今年度末となっている。これを更新するためには地権者全員の同意が必要。
- ・市は裁判で全面敗訴という結果となり、控訴せずに和解させていただくことで誠心誠意お話を継続させていただいてきたが御理解をいただけなかった。
- ・山田町の震災がれきを受け入れ、その震災がれきの放射線濃度の測定をしたが、放射線濃度は島田市の濃度と同等またはそれ以下であった。
- ・地権者の了解なしに受け入れてしまったことで、数名の地権者の方の行政に対する長年の不信感からいい返事をいただけなかった。（全員の地権者の同意をいただけなかった。）
- ・このため、新しい最終処分場は継続して適地を探していくが、当面の間、田代環境プラザの熔融後の飛灰については、県外又は市外の業者に処理をお願いすることとした。これは、市民生活に支障をきたさないことを最優先に考えたことの結果である。自前の処分場を持っているのは近隣自治体（焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町）では島田市だけ。（自前で処分場を持つよりは）外に出したほうが処分費は安い。外出しも1箇所ではなく複数箇所に出して、

リスクを分散させていきたい。

・新たな最終処分場について、おとし調査を行い、候補地とした6箇所は様々な課題があり、適地（20年間継続して使用できること、きれいな水の排水、道路のアクセス、周辺の集落の状況など）はなかった。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■新東名島田金谷インター周辺整備について</p> <p>金谷地域、特にインター周辺、五和地域の10年先の将来像についての行政としての、構想及び地域における支援について（地域としてはどうしたらいいの？）</p>	<p>●この地域に拠点ができることによって、ここにお客さんが来れば、民間がホテルや店舗を構えていくことなどにより、また新たな広がり（機能）が出てくるものとする。行政も新たな機能（付加価値）を付けていけるように努め、単に、にぎわい交流拠点を整備するだけでなく、様々な付加価値のある拠点としていくことが必要であると考えている。インター周辺整備は病院の次に重要な施策であると考えている。</p> <p>地域の皆様には事業が円滑に進捗するよう御協力を賜りたい。例えば住居の移転をはじめ、拠点ができることによって、「食べる」、「遊ぶ」、「買う」といった体験をはじめ、近隣の様々な食材も集まってくるものと考えられるので、出店をいただくことや、雇用が増え新たな住民が入ってくることによる、地域のまちづくりにも御協力を賜りたい。</p> <p>市民会館と市役所（築53年）、おおり（築34年）であるが、市役所は躯体が震度7にも耐えられると判断しているので、病院建設をまず優先して行うことを選択した。市民会館は現在、解体は終了して更地になっている。</p> <p>今年度中には舗装をしていきたい。帯桜があるところは、少し広めの帯桜パークのようなものをつくって市民の憩いの場やイベントの場として活用してもらえるようにと考えている。当面の間は、駐車場、賑わい広場、中心市街地の防災の避難地として使っていく予定。今後、市役所、市民会館、おおりをどうするかということについて、検討委員会を立ち上げて検討していきたい。</p>

<p>2</p>	<p>■インター周辺の人口増加策について</p> <p>人口減少の中、人口増加、または対応について島田市はどう考えていますか。特にインター周辺の人口増加を図るためには、どう対応しているか考えているか。また、地域はどんな対応をしたらいいか。 (小さなまちづくりについて)</p>	<p>●この地域には雇用の受け皿となる地域の皆さんがたくさん住んでいる。これは企業進出にとって重要な要素である。インター周辺に企業が立地すれば雇用が生まれる。この地域に住んでいただくためには、暮らしやすいか否かということになり、この地域は暮らしやすい地域であると思っているが、政策として、待機児童（保育園、放課後児童クラブ）の解消など、若い人が暮らしやすい諸条件を整えていく。また、新しい人を受け入れてくれる地域であることも重要である。こうした中において、綱引きの陣取り合戦、夏祭りなど、まちづくりに関して選ばれる街になると確信している。</p>
<p>3</p>	<p>■金谷庁舎の今後の利活用</p> <p>旧金谷庁舎の今後の利活用については、どうか。</p>	<p>●金谷庁舎は、合併する時には耐震補強して使うということを知っているが、前の市長のときにそれはしないということで、支所を2箇所整備した。</p> <p>金谷庁舎のエアコンが昨年壊れ、修理費に6,000万円もかかるということだったが、耐震性のない建物に、それだけの投資はできないということで修理はしていない。</p> <p>金谷庁舎については、現在、おおりに入っている社会福祉協議会が市民会館の向かい側に移転した。(11月7日)。社会福祉協議会が出たスペースに教育委員会を移転する計画である。(年明け)耐震性のない庁舎での業務には課題もあること、しかもあの施設を耐震化することは莫大な費用がかかる。さらに配管等の設備の老朽化が進んでいる。</p> <p>こうした中で、一度おおりに教育委員会を移していく。今までも、金谷庁舎の跡地の活用について検討してきた。例えば、新しい市民病院には療養病床がないことから、民間の療養病床の施設も検討したが、志太榛原地域の医療協議会で病床数の承認を得る必要があり、現在、志太榛原地域の1,060床ある療養病床数で足りるという中で、協議会において承認をいただける見込みがない。開業医の先生方が看取りまでお世話いただいている中で、島田市に療養病床が必要なのかというご指摘。さらには、2025年(団塊の世代が全て後期高齢者となる年)を目途に、医療制度改革として施設</p>

		<p>から在宅へという流れ。こうしたことを熟慮した中で検討を断念した。</p> <p>また、特定検診の病院も考えたが、ある病院側からは行政が建ててくれることが条件で、行政はそれだけの負担は難しいということで白紙となった。</p> <p>公共施設は 276 施設 663 棟の建物がある。この施設に係る修繕費の費用はこれからの 40 年間で 2,515 億円かかる。年間 63 億円にもなる。今は維持管理・更新に年間 36 億円かけているので、その 1.75 倍となる。投資できる金額との整合性を図るためには、今後 40 年間に公共施設の約 21%を削減しなければならないというデータが出ている。</p> <p>例えば、川根小学校に市立図書館と併設する発想や、市役所なら、最上部をマンションにして、マンションを売ったお金で市役所を建てるなどの大胆な発想が必要となる。</p> <p>公共性の高い民間活力の活用を主眼において、金谷庁舎のことを今後も検討していきたい。</p>
<p>4-1</p>	<p>■放課後児童クラブについて</p> <p>現在、五和小学校の放課後児童クラブについては、五和会が請け負っている。定員は 40 人だが現在 55 人を受け入れている。ただ、来年の要望が 70 人となっている。</p> <p>この施設の空いている部屋を活用しているが限界であると感じている。この施設での有効利用をどういうふうにしていくか。和室は個々の職員の休憩室として利用しているので活用を控えている。</p>	<p>●私の方は和室を活用するように指示している。この点については事実関係を確認し指示を出す。【検討事項 1】</p> <p>保育園児については、29 年度に待機児童ゼロを目指して、向谷にも 0、1、2 歳児の保育園（定員 70 人程度）を整備する予定。</p> <p>放課後児童クラブの傾向として、高学年でも放課後児童クラブに入る児童が増えている。今までは、高学年になれば自宅で留守番などをしていたが、現在は、保護者が仕事から帰るまで放課後児童クラブで過ごすお子さんが増えている。</p>
<p>4-2</p>	<p>■今まで 4 年生までの希望者が多かったが、5 年生、6 年生の希望が増えていると聞いている。</p>	<p>●従来は、全児童の 1 割くらいが放課後児童クラブの利用者だったが、現在は 3 割くらいとなっている。このため、児童が卒園した保育園にもお願いしているし、六合では老人施設で放課後児童クラブをお願いしているケースもある。放課後児童クラブの延長で塾をやりたいという動きもある。</p>
<p>4-3</p>	<p>■小学校の空き教室を活用することも方法ではないか。</p>	<p>●今年度当初、市長の指示のもと、校長、教育長にも通達を出している。</p>

		今までは学校の許可がないと施設を利用できなかったが、市長権限で使うといった内容である。
4-4	■五和小学校は1学年3クラス分の教室があるが、現在は2クラスなので空きがあるのではないかと思う。	●来年の4月以降は、すべての施設で6時30分まで預かることになると思う。学校の管理上の問題や炊事の場所、トイレが独立していないとならない関係上、各フロアに空き教室があるから使えるといったものでもない。一団に隔離できるスペースが必要であるが最善を尽くしていく。
5	■婚活事業について （息子が）30歳で独身である。婚活事業に参加しても行って帰ってくるだけ。もう少し、市の方も事業をやるだけではなくて、深くおせっかいをしてくれないか。	●婚活事業は、年5回で、はじめはどんな服を着て、どんな話をしてということからはじめて、料理を一緒に作ってというようなプログラムでやっている。また、親の婚活事業（子供の状況を紹介しあう）も取り組んでいる。 2年ほど前から「おせっかい人養成講座」（仲人をやる養成講座）を実施している。島田市認定おせっかい人は20人から30人いる。（昔で言う仲人さんをつくっている。）今は、個人情報の問題、若い人の好みがあって、お世話する場合も知っておかなければならないことがある。現在、おせっかい人が活動団体を立ち上げている。お見合い会のようなものを実践したり、親の婚活を実施したりしている。やれることは一生懸命やっている。 島田は暮らしやすいところで、結婚している夫婦は平均2人以上の子どもを産んでいる。今はますます結婚する人が減って、結婚しない人が増えている。男性の生涯未婚率は20%を超えている。初婚年齢は女性が29歳、男性が30歳となっている。女性が子どもを産める年齢が40歳くらいまでとしたら、なかなか3人、4人と産めない時代になってきている。男性の独身者は3割を超えている。魔法にかかれないと結婚はできないと思っている。魔法にかかるチャンス（機会）を多く創出していくことが必要。
6	■おでかけバスについて これから先、高齢者の交通事故が多い中で、もう少しキメ細かく周ってほしい。高品質な今のバスではなく、小型の車でいいので。そうすれば免許の返納につながるのでは。	●御提案いただいた内容は、私も前々から思っていた内容である。タクシーの協会とお話したが、乗り合いになると4人乗せても料金は変わらない。月曜日の朝のタクシーの利用率は良く、市民病院に行くお客さんが多いと聞いている。これを乗り合いのタクシーにしてしまうと、タクシー業界の

		<p>収入が減ってしまうため協力は難しいとのお話をいただいている。バスの小型化は容易ではあるが運行経費の大半は人件費であり、小型化して運行させることによって、逆に人件費がかかるといった課題もある。幹線を走らせる路線と地域内で走らせる路線と分ける中で、地域内の路線は車両等の負担は行政がみるので地元の皆さんで運行していただきたいという考え方を持っている。</p>
7-1	<p>■金谷庁舎について 支所を統合するという話は聞いているが、その話は進んでいるのか。</p>	<p>●金谷地域の皆さんのご同意が得られれば、南支所、北支所を今の金谷庁舎の跡地に一本化させていただきたいということ。旧金谷町と旧五和村が合併した融合の地に金谷庁舎があるという点に加え、行政効率も考慮するとあの地に支所を設けていきたいという考え方はある。</p> <p>ただ、今の支所の施設は地域貢献に値するような施設としての活用を考えていきたい。</p>
7-2	<p>■今の考えは金谷庁舎を建て替える時の話か。</p>	<p>●金谷庁舎の検討の中でということになる。</p>
7-3	<p>■この支所でやらなければならない仕事は何かと考えている。その点はどうか。</p>	<p>●1月5日からマイナンバーカードで、住民票などをコンビニで交付できるようになる。マイナンバーカードの普及に伴い、支所に来る回数が増える可能性はある。こうしたことから、支所の機能は、その地域の振興に資する機能を有するべきであると考えている。</p> <p>こうした中、今年の4月から六合、初倉公民館に正規の職員を館長として置いて、その職員が市役所の出先として地域の課題など様々なことを地域の皆さんから教えていただいて、学び、人脈をつくり、情報を収集して、地域の皆さんが本庁に来て申請すること、お願いごと、知りたいことを全てその職員が担っていく形にした。こうしたことにより、情報の一元化や両館の連携も図られるようになってきている。これまでにない機能を付加することができている。館長は、社会教育課、協働推進課、市民課の業務を兼務させている。</p>
8	<p>■職員のモチベーションを上げるにはどうしたらいいか。大切なことである。</p>	<p>●3年半の中で思い続けていることは、自分の役割として、対立軸を生まない政治を心がけているということ。島田は一つであり、その力を削ぎた</p>

		<p>くないからである。</p> <p>もう一つは、市役所改革である。その要素は職員の意識改革と組織改革である。何も言わなくても、市民のために行政として動く職員もいれば、そうでない職員もいる。そうでない職員をどういうふうにして意識付けしていくかということになるが、行政経営方針を作成して、市長の方針、部の方針、課の方針を連動させ、末端までその方針が下りていくようにしている。あわせて、個人面談を実施し、職員が抱えている課題等をヒアリングして解決していくという取り組みと同時に、研修にも力を入れている。</p> <p>早稲田大学のマニフェスト研究所に3人、イノベーション研修にも3人出している。このほかにも、国、県にも職員を派遣している。こうした研修には3年かかる。来年の春には、初めて送り出した職員が帰ってくる。</p> <p>民間からの採用や、弁護士などの特定任期付きの専門職の職員も採用している。トップダウン、ボトムアップの兼ね合いの中で、職員からの提案会なども実施している。職員の人事異動についても、意欲のある職員には核になる業務に行かせている。何ごととも時間がかかる。様々な事業の種をまいて、芽が出てくるようにしていくためには停滞は許されないため、しっかりと事業を進捗させていきたい。</p>
9-1	<p>■ FMしまだについて</p> <p>FMしまだがあるが、五和地区で家の中では聴くことができない。防災にも活用できるのではないか。</p>	<p>● 7本の鉄塔を建てて、多くの方に聴いていただいているところであるが、現在は携帯電話（スマートフォン）でも聴くことは可能である。</p>
9-2	<p>■ スマートフォンの電池の消耗が激しくなる。</p>	<p>● FMしまだについては、借金の返済が終了していないので、新たな設備投資については、今後の中長期計画の中でやらなければならないと考えている。防災面では、島田市域だけでよいのかという課題もあるため、今後そうした課題については検討していく必要がある。</p>
10-1	<p>■ 市民会館の跡地について</p> <p>市民会館の跡地に市民会館に代わるものを造る考え方はあるか。</p>	<p>● 市民会館の跡地は、年度内に舗装して、当面の間、駐車場、賑わい広場、中心市街地の防災の避難地として使っていく予定。市民会館と同じ機能のものを造るかどうかについては、年明けに市役所も含めた検討委員会を立</p>

		<p>ち上げて、その中で協議をしていくことになる。市民会館が閉鎖する前の5年間の稼働率を見ると、1年のうちに練習日も含めて、ホールが使われているのは30日くらいとなっている。リハーサルをあわせても年間60日くらいの稼働率であった。これに対して、同じものを造るとなると、70~80億円という事業費になることから、市民病院の建設、小中学校の改修、金谷庁舎等も考慮すれば、「あったらいいな」ではなくて、建てるのであれば、今後この地域にどれだけの需要があり、市役所やおおりの合築、さらには、皆さんが望んでいるのは、1,000席を超える施設ではなくて、広いステージを望んでいるので、そうしたことも考慮して検討していく必要がある。</p>
<p>10-2</p>	<p>■ステージのバックヤードが狭い。太鼓をやっているが、島田は県の中心に位置することから、イベント実施地の候補に島田が挙がる。しかし、太鼓を置くスペースがない。裏の楽屋までステージが欲しいほど。吹奏楽も同じだと思う。幅も奥行きも欲しい。市民会館を造るのであれば、ステージの広さを考慮していただきたい。</p>	<p>●（席数ではなく）ステージが広い施設が必要であることは承知している。市民会館は県内でも2番目に早くできて、あの規模で、非常に音響も良くて、県内一の市民会館だった。一番早く出来たってということは、やっぱり一番早く寿命も来るとのこと。</p>
<p>11</p>	<p>■ソフト面での取り組みについて 道路の拡幅、大鐵の新駅などはインフラ整備である。ハード面を主体に話されたが、市全体として、市長はソフト面で最重要にやっていくことは何か。プライオリティNO.1は何なのか。</p>	<p>●市長になる時に、今のままでは財政的にも持たなくなると感じ、一方で子育て、教育面でも取り組みが重要であることを考えていた。私が今、重要だと思っていることの要素（すべてではないことを断っておく）を挙げると、人々が安心して暮らし続けられるためには「健康」、若い人に住んでもらうためには「子育て・教育」、島田の持っているポテンシャルを活かす「環境」、「危機管理」となる。 こうしたものを柱として、ここに住む皆さんが安全で安心して住めるということ（すなわち住み心地ナンバーワン）を目指す。 「子育てするなら島田市で、住むなら島田市で」と、選んでいただける安全・安心な都市を作りたいと思っている。 ※健康：島田は健康で長寿な方が多いまちである。今年は24時間訪問看護ステーションをはじめ、新総合事業（介護、介護予防、生活、生活支援、</p>

		<p>暮らしをトータルでみていく)にも取り組んでいる。</p> <p>※子育て：県内でもトップクラスだと思っているが、今最重課題として臨んでいるのが待機児童ゼロを目指すことと、放課後児童クラブの待機児童についてゼロを目指すこと。</p> <p>※環境：島田市は再生可能エネルギー県内ナンバーワンの都市である。 太陽光、水力、木質バイオマスに加え、来年度からは、川根温泉でメタンガスの発電を開始する。川根温泉の電気使用量の6割程度を、このメタンガスに伴う発電で賄えると思っている。熱源は日帰り温泉に行かしていきたいと考えている。</p> <p>※危機管理：危機管理監を置いて、様々な危機管理施策は県内一できていると思っている。昭和56年以前の建物については、耐震診断は無料で行っている。耐震性がないと診断された場合には、耐震補強は来年度一年間限りではあるが、上乘せした補助額として95万円(高齢者世帯)、一般家庭で75万円の補助金額が上限となる。平均で120万円程度、耐震補強の経費がかかるといわれている。補助金との差額は自己負担になるが、その負担も厳しいという方については、防災ベッド、防災シェルターについて、耐震性がない家屋が補助の条件となるが、自己負担はほとんどないと思う。 行政の根本は、「ここに住む人の命と財産を守ること。」「安心してここに住み続けられるまちをつくること。」である。</p>
12	<p>■市道島竹下線について</p> <p>現在の状況を聞かせていただきたいことと、大井川鐵道との連動信号については、警察の理解が得られていないので、今後の取り組みについて教えてほしい。</p>	<p>●市道島竹下線について事業着手はしているが、いつから現場(工事)に着手できるかは、正確に県から伝えられていない状況である。</p> <p>測量、設計などはできていると聞いているので、今後、用地交渉、測量に入っていくということを知っている。あの交差点改良の時期等について正確に申し上げられないことについては申し訳ないが、県も国の補助金との関連もあるので正確に言えないところがあると思う。</p> <p>大井川鐵道との連動信号については、国会議員にもお願いしている。多額の費用が掛かるそうだ。市内全域で昨年信号機の新設は2箇所というよ</p>

うに警察も予算がない中で、通常の信号機 10 台分程度かかる連動信号であることに加え、大鐵との協議も必要であると聞いているので、その対応もしていかなければならない。地元の皆様も、通学路であることなど、御心配もいただいている案件であるので、交差点改良とあわせて、連動信号については県にも国にも引き続きお願いしていく。

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子



⑤検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）
4-1 検討事項 1	●私の方は和室を活用するように指示している。この点については事実関係を確認し指示を出す。【検討事項 1】	■放課後児童クラブの入所児童の増加により、平成 27 年度から、放課後児童クラブの要望を踏まえ、一年間和室を使用する日については優先的に使用できるよう対応をしております。 ご質問をいただいたような和室を放課後児童クラブの運営に支障が出るような職員の休憩室としての使用の仕方はしておりませんし、和室の使用については柔軟に対応しております。

ただ現状では、指導員からは、和室は部屋も狭く、放課後児童クラブの活動には、不向きであるという意見をいただいております、部屋の確保をしているものの利用実績はほとんどありません。

平成 28 年度には、放課後児童クラブから、介護予防訓練室の利用要望を受け、担当課の子育て応援課と介護予防訓練室の管理担当課である長寿介護課との話し合いにより、主に、児童クラブの部屋と介護予防訓練室とを併用して利用運営されております。

また、放課後児童クラブの部屋と介護予防訓練室の使用以外として、放課後児童クラブ全体の行事・イベント、クラブ活動等について、4月の年度当初に年間の予定表をいただき、多目的ホール、集会室、和室が優先的に使用できるよう事前に確保させていただいております。

さらに、平日において、突発的な施設使用においても、その都度、部屋の空き状況を踏まえ使用していただいております、指導員とは、常に連絡調整を図りながら、柔軟な対応をしております。

平成 29 年度以降においても、金谷地域包括支援センターや放課後児童クラブとの連絡を密にして、共助協力して施設管理・施設提供に努めてまいります。